



## 第37回九州学生選手権競技 第17回九州女子学生選手権競技

競技報告 (2018/ 6/ 7)

写真と記事 : M. Kikutake

### 男女ともに初優勝

男子は菅 卓人(東海大九州3年)

女子は松熊理子(日本経済大2年)

6月7日、大分県日田市のローレル日田カントリークラブ(男子6791ヤード、女子6244ヤード、いずれもパー72)で行われた。

男子は菅卓人(東海大九州3年)と渡辺弘泰(長崎国際大3年)の2人が通算8アンダー、136で首位に並んだが、規定により、最終ラウンドのスコアが上位の菅が、逆転での初優勝を決めた。

女子は1オーバーの73で回った松熊理子(日本経済大2年)が後続に2打差をつけて初優勝した。

例年より早い梅雨入りした北部九州だったが、この日の日田地方は終日、曇り、気温27.1度、北東の風2m/s(正午現在)と好コンディションに恵まれた。

### 男子は8アンダーの136 逆転Vの菅

1日36ホールストロークプレーで行われた男子は59人(欠場1人)が出場。第1ラウンドは5アンダー、67の渡辺と、前週の九州アマチュア選手権で優勝した古川雄大(東海大九州3年)の2人が首位スタート。これを1打差で奥村栄史郎(同1年)ら3人が追う展開となったが、20人がアンダーパーをマークする混戦となった。

第2ラウンドはこの中から、3アンダーの69で6位タイスタートだった菅が1イーグル、5バーディー、2ボギーで回り5つスコアを伸ばして、8アンダーとした。渡辺も3アンダーとスコアを伸ばしたものの、最終ラウンドのスコア比較で菅に及ばず、2位に泣いた。古川は第2ラウンドは70と伸ばしきれず、田中恵太(長崎国際大3年)、中村志風(東海大九州2年)、稲田愛篤(同)とともに3位タイ。2週連続優勝とはならなかった。

### 女子の松熊は1オーバーの73

18ホールの女子の松熊は出だしから連続ボギーなど3ボギーと不安な立ち上がりだったが、9番からは4バーディー、2ボギーと盛り返し、快勝した。前年優勝の蔵座一華(東海大九州2年)は7オーバーの79で6位タイ。連覇はならなかった。2打差の2位タイは元永華奈(九州産業大1年)、永江綾(東海大九州1年)、日巻那々恵(日本文理大3年)の3人。なお、女子の参加者17人(欠場1人)は過去最多だった。



## 男女の優勝者は日本学生・日本女子学生選手権の出場権獲得

この試合の結果、優勝した男子の菅は第72回日本学生選手権（8月21日から、埼玉県・飯能GC）、女子の松熊は第55回日本女子学生選手権（8月22日から、同）への出場権を獲得した。



### 九州で頑張っています

### 菅、日本学生制覇に意欲

チームメートには前週の九州アマチュア選手権でV2を果たした古川雄大という切り札がいる。2週連続で学生選手権も狙う古川。第1ラウンドが終わった時、古川は長崎国際大の渡辺とともにベストスコアの5アンダー、67をマークして首位に立っていた。

菅は第2ラウンドを2打差の6位タイで迎えた。追う立場。前半、古川が3バーディー、1ボギーで7アンダーまでスコアを伸ばしたのに対し、インスタートの菅は17番まで2バーディー、2ボギーでスコアを伸ばしきれていなかった。「前半が終わって、半分はあきらめていた」と振り返る。

ところが、18番（パー5）から怒濤の追撃だった。このホール、残り195ヤードの第2打を5番アイアンで攻めて6メートルに乗せ、一発で沈めてイーグル。古川が後半はパープレーともたついているときに、2、3、9番とボギーなしの3バーディーを奪い、首位に躍り出たのだ。

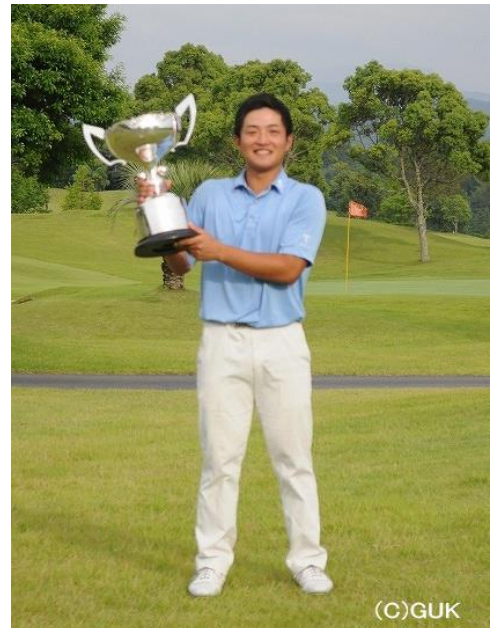
前週の九州アマは「ショットが曲がって」と42位と低迷し、「自信を無くしていた」。それが今回は「OBもなくて、フェアウエイから打つことが多かった」という。「ショットをミスしても、次が狙えるところに行ったり、ラッキーもあった」と菅だが、実は第1ラウンドで「復調、の兆しはあった。古川たちに2打差とやや出遅れたものの、実はノーボギーのラウンドだったのだ。

どこがどう変わったのか。菅は「スタンスがズレていた。それを真っ直ぐに立つようにして修正できた」という。

宮崎市の出身。ゴルフは小学5年生からだが、中学から本格的に練習するようになった。宮崎日大高から地元でもある東海大九州（熊本）に進学。これまで、大きな大会での優勝歴はないが、今回の九州学生制覇で自信もついた。2度目の挑戦となる日本学生選手権は「優勝を目指します」と歯切れが良かった。

**2位の渡辺弘泰**（優勝できなかったけど）頑張ったと思う。第2ラウンドの後半も（ボギーなしの3バーディー）よく耐えた。高校時代（福岡・若松高）は部活がなくて個人でコーチについて練習していた。今は周りにうまい選手がいっぱいいるので、刺激されている。

**2試合連続Vはならず古川雄大** ドライバーもアイアンも曲がりすぎて…調子が戻らないまま、試合を迎えてしまった。残念です。あとは、7月の日本アマです。地元開催（芥屋GC）だけに、応援や期待もある。ショットを調整して、気を引き締めて臨みます。



(C)GUK

“もうちょっと行けたんじゃないか、と反省の弁も

## 初優勝で、初めての全国を決めた松熊



「ショットは悪くなかったけど、パターが入ったり入らなかったりで。スタートでいきなり3パットし、続く2番、6番ではアプローチがうまくいかずに、とボギーが先行した。しかし、9番からは4バーディー、2ボギーと盛り返し、1オーバーのフィニッシュと帳尻を合わせた。

福岡の飯塚高の出身。ゴルフは小3のころから始め、女子プロの大里桃子（熊本国府高出身）や三浦桃香（宮崎・日章学園高出身）と同じ世代。高校時代は部活もなく、個人でゴルフを楽しみ、高3の九州ジュニアは19位タイの成績を残した。

このまま終わるのは、と「ゴルフを諦めきれずに」日本経済大へ進学した。寮生活の中で、多くの仲間のアドバイスも得られ、ラウンドレッスンも増えた。初めての部活を楽しんでいるという松熊。今大会に当たっては「ショートアイアンを練習してきた」と苦手のアプローチ克服に力を入れてきた結果が、成績に表れたようだ。

優勝が初めてなら、全国大会（日本選手権）も初めて。「パターの好、不調の波をなくし、（日本女子学生選手権を）楽しんできたい」と笑顔を見せた。